

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語）

No. 1

調査研究の観点	所 見	
	発行者（東京書籍） 発行者番号（2）	発行者（学校図書） 発行者番号（11）
1 内 容	○ 単元末に「言葉」のコーナー、巻末に「言葉の力のまとめ」を配し、国語学習はもとより、実生活の場での「聞く・話す」「書く」「読む」等の活動を進める上でのポイントが示されている。 ○ 各学年で「図書館へ行こう」「本は友だち」を設け、年間を通じて読書習慣が身に付くようにしている。 ○ 日常生活の一場面をとりあげ、互いの立場を尊重したコミュニケーションのあり方を考えさせる「生活の中の言葉」を設定している。 ○ 随所に「漢字の練習」を配置し、前学年で習った文字を思い出させ、書けるようになっていくかを再確認できる場を設けている。 ○ 伝統的な言語文化である古典作品、名言・名句・ことわざ等に親しむために「日本の言の葉」の単元が各学年で設けられている。また、2年生以上の学年で、日本の四季折々の自然や行事に関わる言葉や詩歌味わうための「日本語のしらべ」が春・夏・秋・冬の4箇所設定されている。	○ 各単元のねらいが一つの領域にしばられているものが多く、明確である。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、単元の初めに学習の流れが提示しており、児童が見通しをもちやすい。また、合科的に扱えたり、身近な内容を取り上げたりして児童が楽しく学べるように工夫されている。 ○ 「書くこと」の領域は案内状や依頼文など、読み手を意識した教材が多く設定されている。また様々な構成表が示されていて、児童が活用を広げることができるよう配慮されている。 ○ 「読むこと」の領域では単元末に「手引き」があり、教材の目標に沿った読解のプロセス（全体把握→全体把握を経た深化）が示され、児童が学習計画や学習内容を捉えられるよう工夫されている。 ○ 単元末に「国語のカギ」、資料に「授業で使う言葉」を設け、言葉の学習が随所に入れられており、分かりやすく説明されている。 ○ 全体的に時代性を意識して幅広く教材を集めており、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する教材や、情報社会に関わる教材など、新しい題材を使用している。 ○ 読書単元や読書案内を設定したり、「読むこと」の単元に図書の紹介があったりと、読書活動の充実を図っている。
2 構成・分量	○ 学習項目を目次とは別に、「話す・聞く」「書く」「読む」等に分けて記載し、1年間の学習の見通しをもてるようにしてある。 ○ 詩・短歌・俳句・漢詩等の作品が、他社に比べて数多く取り上げられている。特に、伝統的な言語文化に関する事項を取り上げた作品数が際立って多い。反面、説明的な文章の掲載数が若干少ない。また、説明的な文章の中で、図表や写真等を取り上げた数が他社に比べて少ない。	○ 学び合いの根幹となる場面形成のために、学年冒頭に「学級作り」のページが設けられている。 ○ 新出漢字は各単元の終わりではなく、いくつか単元分が一箇所にとまとめて書いてあるので、漢字一覧としては便利であるが、児童が検索する場合は探にくい。 ○ 「書くこと」の単元数は、全体として平均を上回っている。反面、「読むこと」で取り上げられた作品数が、他社に比べて少なくなっている。
3 表記・表現	○ 新出漢字は、脚注にフリガナを打って示されている。 ○ 作者や筆者、挿し絵に対しての欄外等での説明や解説の類がない。 ○ 4社に掲載されている「モチモチの木」だが、当社では滝平二郎の印象的な絵の効果を最大限生かそうと、贅沢かつ印象的なつくりになっている。	○ 新出漢字が最初に出てくるところでは、ふりがなを付けて読みやすくしており、児童が取り組みやすい。 ○ 児童が一目で分かるように、大事な箇所は色を変えて分かりやすくして、印刷の工夫が見られる。 ○ 難しい表現や表記にはすぐ下に脚注があって親切である。 ○ 挿絵の雰囲気は全体的にやわらかく、作品世界に合っているものが多い。
4 使用上の便宜	○ 題名や大切な箇所の文字と、その他の文章の文字の太さが違い、ぱっと見た時に区別しやすい。 ○ 裏表紙に「保護者の皆様へ」としてこの教科書が「言葉の力」を身に付けることを目指している旨を明記している。	○ 1年生の初期段階においては、インデックス方式のページ構成であり、児童が見付けやすい。 ○ 巻末資料はレイアウトに工夫が見られ、読みやすい。 ○ 学年毎に表紙、背表紙が色分けされており、分かりやすい。 ○ 巻末に「保護者の方へ」という保護者向けのシラバスが載せてあり、家庭教育との連携に配慮されている。

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語）

No. 2

調査研究の観点	所 見	
	発行者（三省堂） 発行者番号（15）	発行者（教育出版） 発行者番号（17）
1 内 容	○ 全領域の単元の最後に「私の本だな」があり、学習内容と関連した本が紹介されている。年間を通した多様で多彩な読書活動へ導くための読書指導が可能である。 ○ 単元の学習の前に、「新しい漢字を学ぼう」が配置されており、学習した漢字を教材の中で再学習できるようになっている。しかし、漢字によっては、次の単元で学習する文字も含まれている。また、脚注に新出漢字や新しい読み方の漢字が示されていない。 ○ 「覚えておきましょう」マークを随所に掲載し、基礎的・基本的な言語技能に関する用語等について確認できるようにしてある。 ○ 「学びを広げる」では、既習・未習の別なく漢字にふりがなをつけて掲載している。未習漢字の扱いは、2年生は4年生までの漢字、3・4年生は6年生までの漢字、5・6年生は中学校で習う常用漢字となっている。しかし、既習の漢字全てにふりがなを付ける必要があるのだろうか。全学年で習った漢字くらいまでにとどめてもよいのではないかと考える。	○ 単元の終末にある「ここが大事」や巻末にある「この本で学ぶこと」があり、学習の要点をまとめている。 ○ 全体を通じて、考えるための着眼点を示し、アドバイスや感想を述べ合ったりすることで学び合い、「伝え合う力」の育成を図っている。 ○ 「書く」「話すこと・聞くこと」の単元で、学習のポイントや方向性が示されており、子供が主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○ 「話す」「書く」の学習を系統的に繰り返す行うことで、言葉の力を育み、目的や意図に応じて考えを伝える力の育成をめざしている。 ○ 「読むこと」の単元では、「てびき」の中で読みのポイントを示し、読む力の育成を図っている。 ○ 読書力を高めるために、「読むこと」の単元の後に類似した本の紹介を、「読書の交流から」の単元で読書体験の交流を、上下巻ともに巻末にジャンル別に図書を紹介している。
2 構成・分量	○ 「読むこと」の作品数を見ると、文学的文章は平均的であるが、詩歌や説明的な文章の掲載作品数は他社より少ない。説明的な文章において、図表や写真等の数がかなり少なめである。「読むこと」における伝統的な言語文化に関する事項をとりあげた作品数も大きく下回っている。	○ 全学年上下二分割になっている。 ○ 「話すこと・聞くこと」で、「説明や報告をする」「メモをとって聞く」「話し合い」等の単元数が他社よりやや少なくなっている。「書くこと」では、「記録を書く」の単元が他社より多めに設定されている。「読むこと」において、俳句・短歌等の作品数が少なく、伝統的な言語文化に関する事項を取り上げた作品数も少なくなっている。
3 表記・表現	○ 表紙・挿絵ともに、柔らかな色調で落ち着いた学習に取り組むことができる。物語文以外の挿絵は、やや平板な印象がある。 ○ 脚注が非常に少ない。辞典で調べた方がよい言葉、新出漢字や読み替えの漢字などを載せた方が、自分で調べたり考えたりするなどの学習がしやすい。	○ 作者についての解説が作品の最後に載せられており、児童に対して親切なつくりになっている。 ○ 1年生は、挿絵、文字ともに鮮明で見やすい。ただ、6年生の表紙はやや色調がきつすぎて、発達段階に合わない感じがする。 ○ 4社に掲載されている「モチモチの木」だが、他の3社は場面ごとに副題を付けているが、当社だけは場面の最初に数字が記されているだけである。原作の表現に最も近いつくりとなっている。
4 使用上の便宜	○ 分冊の「学びを広げる」は、1冊にまとまっている方が使いやすいように思う。 ○ 題名や大切な箇所の文字と、その他の文章の文字の太さが違い、ぱっと見た時に区別しやすい。	○ 裏表紙に「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮して、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と明記されている。また再生紙と植物油インキの使用、バイオマスエネルギー由来のグリーン電力による印刷など、こうした記述の多さでは随一のボリュームである。 ○ 表紙の色調・デザインが、教科書としてはやや奇抜すぎる。

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語）

No. 3

調査研究の観点	所 見	
	発行者（光村図書）発行者番号（38）	
1 内 容	○ 各単元のねらいが明確で、それぞれの単元の冒頭に記してあり、その指導事項は基礎的、基本的な内容である。 ○ 「読むこと」の単元では、学習の手引きが見開きで構成してあり、読みの観点や取り組む言語活動が分かるように明記してある。また、振り返りも掲載されており、児童が主体的に取り組む流れになっている。 ○ 「読むこと」の題材は、これまでに取り上げられてきた作品が扱われているが、新しい作品も扱われている。説明文に関しては、話の構成がわかりやすい題材になっている。 ○ 読書活動を広げるために「本は友達」という単元が設けられている。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、単元の冒頭に「活動の流れ」があり、学習計画を見通すことができる。 ○ 2年生以上の上巻冒頭には「言葉の準備体操」が設定されており、緊張をほぐす内容になっている。 ○ 「書くこと」の単元は、年間2箇所の単元と4箇所の小単元がある。具体的な資料を基に、文章のまとめる方法も記されている。 ○ 2年生以上の教科書の冒頭には、「いつも気をつけよう」という紙面があり、この学年でどんなことに気を付けて学習を進めていけばいいのか、児童にも分かりやすい。	
2 構成・分量	○ 3年生以上の冒頭に見開き2ページを使って、「学習を見わたそう」という紙面が設けてある。その学年で付けるべき力を児童が確認できるようになっている。 ○ 「書くこと」における「調べたことをまとめる」の単元数、説明文の文章中に掲載されている図表や写真等は他社より多く取り上げられている。また、文学的な文章も他社より多くなっている。	
3 表記・表現	○ 1年生の入門期の単元が児童の想像を引き出すよう、きれいな絵で構成されている。 ○ 説明文では、見開き2ページの短い説明文を載せ、段落番号、はじめ・中・おわりの表示、段落の意味の解説を載せるなど、学習の見通しを児童が持つてから本文の学習に入るような工夫がされている。 ○ 難しい表現や表記にはすぐ下に脚注があって、児童が確認しやすい。	
4 使用上の便宜	○ 題名や大切な箇所の文字と、その他の文章の文字の太さが違い、ぱっと見た時に区別しやすい。 ○ 学年ごと、教科書ごとに名前がつけられている。（銀河・創造、等）	

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語 書写）

No. 1

調査研究の観点	所 見	
	発行者（東京書籍）発行者番号（2）	発行者（学校図書）発行者番号（11）
1 内 容	○ 書く姿勢についての説明は、ポイントが明確に示されていて分かりやすい。鉛筆の持ち方の説明に、箸の持ち方を例にしているが、1年生では箸をきちんと持てない子もいて適切とは言えない。 ○ ひらがなの練習は、指でなぞることから始めている。その際の「とめ」「はらい」の感覚をつかませるためにイラストを工夫している。 ○ 鉛筆でなぞったり書いたりする回数は少ない。 ○ 毛筆の入門期において、用具の配置、姿勢、筆の持ち方、後片付け等について、4ページを使って分かりやすく説明している。 ○ 手紙の書き方やパンフレットの効果的な書き方など、国語の「書く」領域との関連をもたせた学習ができるようにしている。 ○ 硬筆・毛筆ともに、発達段階を考慮しながら書写の基礎・基本を反復しながら練習できるようになっている。 ○ 各文字について、「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「学習を振り返ろう」を設けてあり、学習の流れは明確である。しかし、「調べよう」の中で、児童に指示してあることが容易ではない内容もある。	○ 書く姿勢についての説明は、ポイントが明確に示されていて分かりやすいが、鉛筆の持ち方については1年生には説明が難しい。 ○ ひらがなの練習は、最初から1・2・3・4の部屋を意識させるようにしている。指でなぞることなく、すぐに練習を始めている。 ○ 毛筆の入門期において、用具の配置、姿勢、筆の持ち方、後片付け等について、5ページを使って分かりやすく説明している。 ○ 「学習のまとめ」を各学年の最終単元に位置づけ、学習事項の整理・復習に活用できるよう工夫されている。 ○ 伝承されている詩歌、古典の一部などの書写を導入している。 ○ 毛筆の手本は、半紙原寸大サイズを採用しており、穂先の動きや筆使いポイントを示していて分かりやすい。 ○ 朱墨、薄墨の連続写真の掲載、「かご書き」「ほね書き」を示し、児童の自学自習が可能な内容になっている。 ○ 毛筆教材を硬筆に生かすコーナーが所々にあり、基礎・基本を繰り返し習得する内容になっているため利用しやすい。
2 構成・分量	○ 教科書全体が、「練習」「生活に広げよう」「まとめ」「付録」の構成で、基礎・基本を定着させるとともに、書写で学んだことを生活に生かしていけるような構成となっている。	○ 書写の技能を獲得するプロセス「観察」→「試し書き」→「自己評価／課題の見だし」→「練習」→「まとめ書き」を示し、各単元が構成されている。
3 表記・表現	○ 「学習を振り返ろう」の文章が平易で簡潔に表現されていて、児童には親しみやすいものとなっている。 ○ 毛筆の教科書では、「手本」「解説」「関連する学習材」の「解説」の部分が小さな文字で書かれていて、見づらいものとなっている。	○ 各筆使いのポイントの写真が分かりやすく、特に右はらいの力の抜き方を①②③②①と数値化しているので理解しやすい。 ○ 各毛筆単元にも硬筆で書くコーナーが設置されており、関連させて学習しやすく、えんぴつマークで知らせているので、児童も理解しやすい構成である。
4 使用上の便宜	○ ノートや原稿用紙の書き方、手紙やはぎの書き方等、日常生活に活用できるよう工夫されている。 ○ 学習を進める上での用語解説やヒントは、キャラクターの吹き出しで示されている。児童には親しみやすいものとなっている。	○ 毛筆は、半紙の大きさと印刷してあるので、大きさや位置を把握しやすい。 ○ 3年の毛筆入門では、用具の扱いが写真入りで分かりやすく示されており、視覚的に確認しやすく便利である。 ○ 1～3年の硬筆単元に書き込みスペースがあるので使いやすい半面、書きこみしづらい紙質である。

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語 書写）

No. 2

調査研究の観点	所 見	
	発行者（三省堂）発行者番号（15）	発行者（教育出版）発行者番号（17）
1 内 容	○ 書く姿勢についての説明は、ポイントが明確に示されていて分かりやすい。鉛筆の持ち方については、イラストだけなので理解できない可能性がある。ポイントが明示されているとよい。 ○ ひらがなの練習は、指でなぞることから始めている。 ○ 鉛筆でなぞったり書いたりする回数は少ない。 ○ 「書く」「わかる」「たしかめる」「ふりかえる」の学習過程を繰り返すことによって、児童が学び方に慣れるようになっている。 ○ 文字の字体について、「とまる」「つきでる」「つく」「つかない」「長さ」等の説明が書かれている。字体の基本を示すのはよいが、説明の文言が児童には分かりづらい。 ○ 美しく書くためのポイントが単元名となっていて、運筆の要点を児童に意識させやすい。 ○ 高学年の毛筆では、児童に考えさせながら書かせることで、学びのポイントが身に付くことをねらっている。 ○ 日常生活の中での様々な書字場面を、各学年で取りあげて、書写の学習で学んだことを活用できるようにしている。	○ 鉛筆の持ち方や書く姿勢についての説明は、ポイントが明確に示されているが、箸の持ち方から説明している部分は適切ではない。 ○ ひらがなの練習は、指でなぞることから始めている。その際の「とめ」「はらい」の感覚をつかませるためにイラストを工夫している。 ○ 鉛筆でのなぞり書きの回数が少ない。 ○ 毛筆の入門期において、用具の配置、姿勢、筆の持ち方、後片付け等について、3ページを使って分かりやすく説明している。 ○ 書き方のリズムを体感させるために、筆の動きをキャラクターの体の動きで表している。児童にとっても、分かりやすいものである。 ○ 国語教科書に掲載された文学教材や伝統的言語文化の文章を引用している。書写で視写することで、より深い内容理解ができる。 ○ 日常生活の中での様々な書字場面を、各学年で取りあげて、書写の学習で学んだことを活用できるようにしている。 ○ 学習したことを日常生活でも生かせるように、毛筆学習の成果を硬筆学習につなげられるように関連を図っている。
2 構成・分量	○ 「考えよう」「書こう」「たしかめよう」の構成で各単元が作られていて、学習の流れが分かりやすい。	○ 右ページにお手本、左ページに解説が書かれていてすっきりした構成で見やすい。見開きのページで、単元の学習が完結するようになっている。
3 表記・表現	○ ポイントを絞り、大切なことを短く記入してあり、全体としてすっきりとしたレイアウトになっている。	○ 「学習を振り返ろう」の文章が平易で簡潔に表現されていて、児童には親しみやすいものとなっている。 ○ 運筆状のポイントを「ここが大切」のマークで示している。さらに、特に重要な事柄については朱書きで示している。
4 使用上の便宜	○ あえて字形の整っていない文字を提示しているが、そのことにより整った文字を書くためのポイントが明確になっている。児童にも分かりやすい。	○ 基本的に、見開きのページで指導が完結するようになっているので、指導がしやすくなっている。 ○ 国語科の教科書との関連をもたせているので、国語の学習が書写に、書写の学習が国語科に活用することができる。 ○ 3年生以上の巻頭には、「学習の進め方」が掲載され、児童の主体的な学習力の育成に配慮している。

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語 書写）

No. 3

調査研究の観点	所 見	
	発行者（光村図書）発行者番号（38）	発行者（日本文教）発行者番号（116）
1 内 容	○ 鉛筆の持ち方や書く姿勢についての説明は、ポイントが明確に示されていてわかりやすく、文字も強調されて見やすい。「えんぴつでなぞろう」の場面でも鉛筆の持ち方を確認している。 ○ ひらがなの練習は、指でなぞることから始めている。「とめ」「はらい」の感覚をつかませるためにイラストを工夫している。 ○ 毛筆の入門期において、用具の配置、姿勢、筆の持ち方、後片付け等について、5 ページを使って分かりやすく説明している。 ○ 観察や比較を通して、文字の造りに応じた文字の整え方の原理・原則を見つけ出させるようにしている。 ○ 中・高学年の硬筆教材は、国語教科書に掲載された文章(名文)を引用している。書写で視写することで深い内容理解ができる。 ○ 高学年の冒頭に、学習の見通しが分かるページを載せている。 ○ 2 学年以上の教材に、「たいせつ」が設けられており、書くときのポイントが整理されている。 ○ 身につけたことが日常に生かせるように資料を載せている。	○ 鉛筆の持ち方や書く姿勢についての説明は、ポイントが細かく、明確に示されていて分かりやすく、文字も強調されて見やすい。 ○ 国語の学習内容と関連をもたせた教材が配列されているが、国語教科書を発行していないので、直接的な結び付きはない。 ○ ひらがなの練習は、指でなぞることから始めている。その際の「とめ」「はらい」の感覚をつかませるためにイラストを工夫している。 ○ 毛筆の入門期において、用具の配置、姿勢、筆の持ち方、後片付け等について、4 ページを使って分かりやすく説明している。 ○ 各単元の学習の流れが、「考える」「たしかめる」「いかす」のステップで編成されて、段階的に学習を進めることができる。 ○ 学習指導要領で示されている指導事項を単元名としているので、指導すべき内容が明確になっている。 ○ 毛筆において運筆のポイントが、細かく適確に示されているので、児童にとっても理解しやすい。 ○ 「原稿用紙の書き方」「手紙の書き方」「年賀状の書き方」等のコーナーがあり、他教科の学習の場や日常生活で活用できる。
2 構成・分量	○ 学習の終わりには必ず振り返りが記載されている。 ○ 学習が見開きで完結するように構成されている。	○ 各学年の第一単元は、前学年までの既習事項を振り返り、最終単元は1 年間の学習を振り返るように構成されている。学習したことを生かしながら学習を進めることができる。
3 表記・表現	○ 低学年は、ますの部屋があり、句読点や促音、長音などを書くときの説明が分かりやすい。 ○ 3 年生の毛筆の初めは、短い言葉で力の入れ具合が児童に分かるように記載されている。また穂先の向きの指導では、マークが使われており、児童にとって分かりやすい。	○ ポイントが丁寧に示されているが、反面レイアウト的にはやや細かすぎて見づらくなっている。 ○ 毛筆も字に朱墨で修正すべき箇所を示しているが、どこまでが不用で、どこまでが正しいのかが分かりにくい。
4 使用上の便宜	○ 3 年の毛筆初期の指導では、用具の使い方が写真入りで分かりやすく示されていて視覚的にも確認しやすく便利である。 ○ 学習を通して身に付ける力を教材名としているので、学習のねらいが明確である。 ○ 筆記用具の持ち方や書く姿勢についての説明が全学年で取り扱うようになっており、学習習慣として定着させることができる。	○ ノートや原稿用紙の書き方、手紙やはがきの書き方等、日常生活に活用できるよう工夫されている。 ○ 筆記用具の持ち方や書く姿勢についての説明が全学年で取り扱うようになっており、学習習慣として定着させることができる。